

平成22年度（2010年度）事業計画（案）

財団法人 日本水泳連盟

所 信

『センターポールに日の丸を！』をスローガンに掲げ、2012年のロンドンオリンピックに向けてスタートした第1年目は、主要事業が概ね順調に遂行され、第2年目を迎えることになりました。ここに加盟団体の皆様をはじめとして協賛スポンサー様や多くの関係の皆様のご指導ご尽力に対し、心より感謝と御礼を申し上げます。

昨年の成果は、ユニバーシアード大会（ベオグラード）、世界水泳選手権大会（ローマ）、東アジア大会（香港）などの国際大会で、素晴らしい実績を上げることができました反面、次のステップアップを果たすべきための反省点、今後注力すべき課題などを把握することができました。これらに対し、関係者が一致協力して解決すべく、全力を尽くして前進して行く所存でありますので、なお一層のご支援ご協力をお願い致します。

また、本連盟を取り巻く環境は、昨年引き続き依然として厳しい環境であることを覚悟しなければなりません。こうした状況に対処するためには、忍耐強さとともに、日頃培った基礎力をベースにして、柔軟な思考に基づくポジティブな行動力の発揮が強く要求される所です。このような情勢を念頭に置き、“新しい年の水泳日本構築”を実現すべく、日本水泳界が一丸となって邁進していきたいと願っている次第です。

さて、今年の競技力向上事業においては、競泳は8月に開催されます「第11回パンパシフィック水泳選手権大会（米国・アーバイン）」ならびに11月の「第16回アジア競技大会（中国・広州）」がメインターゲットです。高速水着問題が一段落した本年は、真の実力勝負の場となります。ロンドンに向けて前進する過程の中で、パワーとテクニックの『鍛錬』を第一義に考えながら、世界レベルの向上をリードする意気込みで、成果を挙げていきたいと思っております。飛込については、アジア大会を中心として世界のメダル争いに加わることに専心し、具体的かつ積極果敢な強化対策の実現が強く望まれる所です。水球は、5月に日本で二度目の開催となる「FINAワールドリーグ アジア・オセアニアラウンド（大阪）」での決勝進出を必須の目標にするとともに、アジアNo. 1を実現するための大きな鍛錬の場として注力していきたいと思っております。シンクロは、思い切った原点からの再スタートを切って、メダル奪還を目標においた徹底的な重点強化策を実施したいと思っております。そして、中長期的な対策としての各種別におけるジュニア強化策を強力に推進し、次世代につなげたいと考えています。

一方、競技運営事業としては、国際水連(FINA)の強い要望に配慮して、『FINA競泳ワールドカップ』を本年（10月；東京辰巳国際）より4年間(2010-2013)にわたって開催を受託することになりました。日本の国際大会運営力の更なる向上を図るとともに、選手の国際競技会経験の積み重ねに大いに活用していただきたいと考えています。

その他の事業におきましても、新公益法人移行問題を含め課題が山積しておりますが、総力を結集して取り組む所存です。つきましては、加盟団体をはじめ関係各位には、引き続き一層のご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

平成22(2010)年2月21日

会長 佐野 和夫

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競 技 会	2010年度	2011年	2012年度	2013年度
競	オリンピック大会			◎ 8月	
	世界選手権大会		◎ 7月		◎
	アジア大会	◎ 11月			
	ユニバーシアード大会		◎ 8月		◎
	パンパシフィック選手権大会	◎ 8月			
	アジア選手権大会				○
	東アジア大会				○
	短水路世界選手権大会	○ 12月		○ 12月	
泳	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会	○ 8月			
	ジュニア世界選手権大会		○ 8月		○
	豪州AG大会				
	ジュニアパンパシフィック選手権大会	○ 8月		○	
	ユース・ヨーロッパグランプリサーキット大会	○	○	○	○
	ジュニア・アメリカ遠征	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会		○		○
地域代表海外派遣 (シンガポール)	○ 3月	○	○	○	
飛	オリンピック大会			◎ 8月	
	世界選手権大会		◎ 7月		◎
	アジア大会	◎ 11月			
	ユニバーシアード大会		◎ 8月		◎
	FINAワールドカップ			○	
	アジア選手権大会				○
込	東アジア大会				○
	カナダ・U・S国際・中国 グランプリ大会		○	○	○
	アジアエージ選手権大会		○		○
水	ジュニア世界選手権大会	○ 9月		○	
	オリンピック大会			◎ 8月	
	世界選手権大会		◎ 7月		◎
	アジア大会	◎ 11月			
	ユニバーシアード大会		◎ 8月		◎
	アジア選手権大会				○
球	FINAワールドリーグ	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会		○		○
	ユース海外派遣	○	○	○	○
	ジュニア世界選手権大会		○		○
シ ン ク ロ	オリンピック大会			◎ 8月	
	世界選手権大会		◎ 7月		◎
	アジア大会	◎ 11月			
	アジア選手権大会				○
	東アジア大会				○
	オリンピック大会予選会			○	
	ワールドカップ大会	○ 9月			
	ローマオープン大会	○	○	○	○
	スイスオープン大会	○	○	○	○
	FINAワールドトロフィー	○	○	○	○
	ジュニア世界選手権大会	○ 8月		○	
	アジアエージ選手権大会		○		○
	ジャーマンオープン	○	○	○	○
	チェコ国際ジュニア	○	○	○	○

1. JOC 事業

(1) 第16回アジア大会

①期間・場所 11月12日～27日 中国・広州

②競技種目・日程

(a) 競泳 11月13日～18日

(b) 飛込 11月22日～26日

(c) 水球 11月13日～26日

(d) シンクロ 11月19日～21日

③選手団編成

④選手選考

(a) 競泳 8月18日～21日 パンパシフィック選手権大会 アメリカ・アーバイン

(b) 飛込 8月6日～8日 日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場

(c) 水球 4月3日～4日 国際大会派遣選手選考会 国立スポーツ科学センター

(d) シンクロ 5月2日～5日 日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場

⑤合宿計画

(a) 競泳 未定

(b) 飛込 未定

(c) 水球 未定

(d) シンクロ 未定

2. 特別事業

(1) 第11回パンパシフィック水泳選手権

①期間・場所 8月18日～21日 アメリカ・アーバイン

②選手選考 4月13日～18日 日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場

③合宿計画

(a) 競泳 未定

(2) 2010水球ワールドリーグ アジア・オセアニアラウンド

①期間・場所 5月19日～23日 (男子) 日本・大阪

5月21日～23日 (女子) 日本・大阪

②選手選考

4月3日～4日 国際大会派遣選手選考会 国立スポーツ科学センター

③合宿計画 未定

(3) F I N Aワールドカップ大会 (競泳)

①期間・場所	10月20日～21日	日本・東京辰巳国際水泳場
②選手選考	未定	
③合宿計画	未定	

3. 競技力向上事業

競技力向上事業担当 上野 広治

(1) 競泳委員会

競泳委員長 上野 広治

平成22年度の最重要国際大会は、11月広州で開催される第16回アジア大会である。水着問題も解決し日本選手のレベルが世界のどの位置にあるのか、ある意味ロンドンへの展望を左右する大事な一年であるが、このアジア大会でライバル中国・韓国等を倒しアジアチャンピオンを目指す心意気で大会に臨みます。

4月の日本選手権でパンパシフィック大会の代表を選考し、第11回パンパシフィック大会でアジア大会の代表選手を決定し最強チームを編成します。その後もアジア大会代表選手の中から第10回短水路世界選手権代表を選出、トップクラスで派遣し、ロンドンオリンピック対策の一環として、レベルアップを図るとともに国際経験を積ませます。

また、引き続きオリンピック候補強化合宿を実施する予定で、ロンドンオリンピックで金メダルおよびメダルを獲得するための重点強化を早期に実施し、更なるトップクラスのレベルアップを目的として行います。

ジュニア強化(高校生及び中学生)は、ジャパンオープンで第4回ジュニアパンパシフィック大会の代表を選考します。下期は、夏季ジュニアオリンピックでシドニー・ユース遠征の代表を選考する方向である。地域代表海外国際大会は、過去2回の反省のもと派遣先や対象選手年齢を再検討して活性化をさらに推進します。また、国内強化合宿はジュニアナショナル強化合宿(中央)とジュニアブロック合宿(地域)、さらに小学生優秀選手の強化合宿も継続して実施します。

① 国際競技会

(a) ヨーロッパグランプリサーキット	6月	ヨーロッパ各地
(b) 第11回パンパシフィック水泳選手権	8月	アメリカ・アバイン
(c) 第16回アジア大会	7月	中国・広州
(d) 第4回ジュニアパンパシフィック	8月	アメリカ・ハワイ
(e) 第1回ユースオリンピック大会	8月	シンガポール
(f) ワールドカップ大会	10月・11月	ヨーロッパ各地
(g) 第10回短水路世界選手権	12月	UAE・ドバイ
(h) シドニー・ユース遠征	1月	オーストラリア・シドニー
(i) ジュニア地域代表国際大会	3月	未定

② 強化トレーニング

- (a) 海外合宿(フラッグスタッフ・昆明・グアム)
- (b) アジア大会国内合宿(沖縄)

(c) インターナショナル強化合宿	12月・2月	JISS・グアム
(d) ナショナル強化合宿	12月	鈴鹿
(e) 自由形強化合宿	12月	富士
(f) 地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県
(g) エリート小学生合宿	9月23-26日	JISS
③ コーチ派遣		
ASCA会議	9月	アメリカ
④ 企画、研修及び講習会		
(a) 全国強化コーチ会議	10月	東京
(b) ナショナルコーチングスタッフの育成	10月	東京（クリニック）
(c) 強化コーチの巡回指導	12月	
(d) ブロック合宿担当者会議	10月	東京

(2) 飛込委員会

飛込委員長 末弘 昭人

強化計画作成にあたっては海外遠征を大幅に減らし、国内における長期的な強化練習会および強化合宿を柱とする。過去、派遣を継続していたFINA グランプリシリーズのカナダ～アメリカ遠征とFINA ワールドカップへの派遣を22年度は休止する。また、4月にメキシコで開催される予選会への参加が条件となる第1回ユースオリンピック大会（シンガポール）へも選手の派遣をせず、国際大会へのチーム派遣を絞り込む。ただし、ジュニア強化対象選手が飛込委員会の指定する海外競技会に参加する際には、審査のうえ費用補填をしてジュニア選手が海外で実績を挙げて活躍する場を確保する。

22年度は国内にウェイトを置いた強化をすすめ、23年度に開催される世界選手権大会およびワールドカップ大会に目標をおいてロンドンオリンピック出場権を獲得するための準備の年とする。チーム派遣大会を「世界ジュニア選手権大会（アメリカ・ツーソン）」および「アジア大会（中国・広州）」の2大会とし、両大会における上位入賞を目標において強化を進める。

また、先般FINA 競技規則が改正された事を受け、FINA TDC 前委員長 Kathy Seaman 氏を招聘して変更点の詳細に亘る講義と審判実技の評価を中心としたジャッジクリニックを開講し、審判技術の向上を図る。

1. 世界ジュニア選手権大会

6月下旬に「世界ジュニア派遣選手選考会」を開催して選手を選考する。会期中の出発となるため夏季ジュニアオリンピックには参加できないが、7月に事前合宿をしたあと国内で開催される日本選手権大会及び、高校総体・全国中学を経てツーソンに向かう。前回大会ではメダル数は1個であったので、今遠征でも複数のメダル獲得を狙う。

2. アジア大会

4月に開催される「室内選抜飛込競技会」の成績によって予備選考をし、8月の日本選手権における成績をもって最終選考を実施する。例年、国際大会に選考された選手が転戦していたFINA グランプリ大会（カナダ～アメリカ）への派遣をせず、2回に亘るナショナル

強化合宿の他に夏季シーズン終了後に国内での事前合宿、また、大会直前には中国国内における最終合宿を経て、新種目の創作及びシンクロ種目の強化及び充実を図り、開催地である中国・広州へ派遣する。本大会では、前回の4個を超えるメダル獲得を目標とする。

3. 特別強化拠点事業

ジュニア期からの正しい基礎技術の習得が重要との観点から、「ジュニア強化合宿における小学生の参加」と、陸上トレーニング施設が充実した上海プールにおいて中国チームと一緒に練習する「トップ選手の海外合宿」を実施する。どちらも昨年度初めての試みとして実施したが、高難易度化の進む世界の流れに対応するために踏み切りや空中フォームの見直しなど、基礎技術の向上やひとり一人の意識付け等大きな効果を上げる事ができた。22年度も、限られた強化費を効率的に活用することを目指し、ナショナル及びナショナルジュニア強化選手の中から選抜したジュニアトップ選手を強化の柱として、個人種目における高等種目の習得およびシンクロナイズド種目における競技力向上を図り継続実施する。

①国際競技会

(a) 世界ジュニア選手権	9月2日～6日	アメリカ・ツーソン
(b) アジア大会	12月	中国・広州
(c) ジュニア海外派遣	未定	未定

②強化トレーニング

(a) ナショナルチーム強化合宿		
(ア) 国際競技会国内事前合宿		
・アジア大会事前合宿	10月・12月	2回
(イ) 国内強化合宿	5月・7月	2回
(b) ジュニアチーム強化合宿		
(ア) 国際競技会国内事前合宿		
・世界ジュニア事前合宿	8月	1回
(イ) 国内強化合宿	12月・3月	2回

③オリンピック特別強化拠点事業

(a) 国内拠点合宿	毎月	120日
(b) 海外強化合宿	12月・3月	2回

④企画、研修及び講習会

- (a) 強化コーチ会議
- (b) 研修会
 - (ア) 審判員研修会
 - (イ) コーチ研修会

(3) 水球委員会

水球委員長 原 朗

平成22年度の目標は、アジア大会において男子は優勝、女子は初出場及び初のメダル獲得を実現する。また、この年度は2012年ロンドン五輪出場を見据えたポイントと考え、現在進行中の施策「水球チャレンジ10」の後半にあたり、結果次第では今後の計画を大幅に見直すことが必要となる重要年度と位置付けている。

アジア大会までの強化策の主軸としては、男女ともに水球ワールドリーグ参戦にしている。本年度は第1ラウンドを男女同時開催（大阪）で実施することになった。今大会はアジア大会の前哨戦となるため、自国での開催を生かしてアジアのライバル各国に日本の強さを印象付けたい。

男子強化についてはワールドリーグ前後に、①中国代表チームとの合同練習 ②海外強化拠点（豪州）での強化合宿 ③アジア大会直前に海外チームを招聘して強化合宿を計画している。また、昨年より男子社会人の主力選手を欧州強豪クラブに4名派遣し重点強化を図っており、これに一貫指導で育成をした若手を加え近年になく選手層が増している。女子強化は、昨年度に若返りを進めて経験を積ませており、今後に期待が持てる。ジュニア強化については、平成21年度のアジアエイジグループ選手権で男女アベック優勝をした選手たちを日本代表の練習に参加させて継続的に強化を進めて行きたい。状況によっては才能ある選手を日本代表に引き上げ、経験を積ませて将来の主軸として育成したいと考えている。

国内強化については、4月より強化対象選手を少数精鋭に絞り、味の素ナショナルトレーニングセンターを強化拠点として、継続した代表練習を実施する。また、強化合宿では世界で戦い勝つために必要な心の強化を目的に座学も積極的に取り入れて行きたい。また、「競技力向上および強化に資する」という観点からの国内競技会改革を着実に実行していくことが戦略的課題と認識しており、関係者の理解を得つつ、信念を持って強力に継続推進していきたい。

①国際競技会

(a) ワールドリーグアジアオセアニアラウンド男子

日本（大阪）：5月19日～23日、中国（広州）：5月25日～30日

(b) ワールドリーグアジアオセアニアラウンド女子

中国、日本（大阪）
日本（大阪）：5月21日～23日、中国（広州）：5月26日～28日

(c) ワールドリーグスーパーファイナル男子

7月12日～18日（場所未定）

(d) ワールドリーグスーパーファイナル女子

6月29日～7月4日（場所未定）

②国際大会派遣選手選考会

4月3,4日

J I S S

③強化トレーニング

(a) 海外強化合宿

8月下旬

豪州或いは欧州

(b) 中国代表合同練習

6月（予定）

中国 広州

(c) 国際競技会国内事前合宿

(d) ナショナルチーム強化合宿

(e) ジュニア合宿

(f) 男子代表海外クラブチーム個人派遣

④チーム招待・コーチ招聘

(a) ゴラン・サブリッチ招聘 (継続)

(b) 海外チーム招聘 (アジア大会事前強化) 10月下旬～11月初旬 (予定)

⑤企画・研修および講習会

(a) 強化コーチ会議

(b) タレント発掘・巡回指導

(c) 国際情報収集

(d) 日本代表ゲーム分析・評価事業

(e) 研修会

(f) コーチ研修会

(g) 審判員・指導者合同研修会

(h) ジュニア指導者研修会

(i) 水球教室：簡易水球(仮称)普及・強化の展開

(j) 水球競技広報活動 (イベント等の検討)

⑥地方競技会の充実支援、審判員の育成

(a) 全国水球委員長会議

(b) 水球ブロック会議

(c) 審判員講習会

(d) 競技運営勉強会

(4) シンクロ委員会

シンクロ委員長 本間 三和子

平成22年度は、最重要国際大会をワールドカップ大会(9月)とアジア大会(11月)とし、ワールドカップ大会での上位入賞、アジア大会では2位以上を目指す。今年度は、4年ごとのFINAルール改正によりテクニカルルーティン規定要素とフィギュア種目を大幅に変更した最初のシーズンとなる。新要素をどこまで攻略できるかが勝敗を分ける鍵となるため、テクニカルルーティンで上位に食い込めるよう規定要素の完遂度向上に全力を注ぐ。加えて、基本技術・体力の抜本的強化、ハイライト強化等、代表チームの課題は数多いが、細部まで徹底した強化トレーニングを積んで挑む。オリンピックおよび世界選手権でのメダル奪還に向けて、出場国際大会および出場種目を絞り込み、重点強化を図りたい。

ジュニアは、世界ジュニア選手権にジュニア代表チーム(15-18歳)を派遣する。ジュニアにおいても、多くの国がトップレベルでひしめきあい、最終結果を予想できない混戦状況にある。フィギュアの徹底強化を図り、メダル獲得を目標に臨みたい。

また、2016年、2020年オリンピックを見据えたユース年代(12-15歳)の強化育成を昨年度に引き続き実施する予定である。従来実施してきた競技者育成プログラム一貫指導エリート教育事業を継承し、将来性豊かな有望選手を全国8ブロックより発掘し、表現力、ダ

ンス、トランポリンなど各所属では取り組むことが難しいトレーニングを中心としたユース有望選手合宿を実施する。有望選手からさらにエリート対象選手を少人数選考し、ユースエリート強化合宿を実施、次代の中心戦力になる選手を着実に育てたい。同時に、ユース期よりジャンパー特別育成を行い、アクロバティック動作の強化を図る。

選手強化と合わせてトップ指導者の育成と国際情報収集・分析が重要である。シンクロの専門知識・指導技術を実践的に学ぶ研修会やコーチキャンプを開催し、高い指導力を有するトップコーチの育成を図りたい。

①国際競技会

(a) FINA ワールドカップ大会	9月16-19日	中国・常熟市
(b) アジア競技大会	11月19-21日	中国・広州
(c) FINA 世界ジュニア選手権	8月11-15日	アメリカ・インディアナポリス
(d) FINA ワールドトロフィ	日程・場所未定	
(e) ジャーマンオープン	3月	ドイツ・ボン
(f) チェコ国際ジュニア大会	12月	チェコ・プラハ

②強化トレーニング

- (a) 国際競技会国内事前強化合宿
- (b) ナショナルチーム特別強化合宿
- (c) ユース有望選手特別強化合宿・ユースエリート・ジャンパー育成特別強化合宿
- (d) 全国選抜ジュニア中央合宿
- (e) ジュニアフィギュア強化合宿

③企画・研修および講習会

- (a) ナショナルコーチ会議
- (b) 国際審判員会議
- (c) 全国強化コーチ会議
- (d) シンクロ委員会・委員総会
- (e) 全国委員長会議・ブロック代表会議
- (f) 競技者育成プログラムバジテスト
- (g) トップコーチ実践研修会、コーチキャンプ
- (h) 国際情報収集、競技力分析
- (i) 審判研修会
- (j) 競技役員講習会

(5) 医・科学委員会

医・科学委員長 野村 照夫

平成22年度は、関係諸委員会と連携を深め、現場の意見を反映させて、競技力向上に関する科学サポートを国内競技会および国際競技会への選手団事前合宿等で実施する。また、

競技会における救護および国際競技会への選手団派遣に伴う医事管理においては、水泳に関わる安全管理、強化対象選手の健康診断・体力テスト、アンチ・ドーピング活動、ドーピング・コントロールの実施、医事相談活動、調査研究等を実施することで、医事サポートを充実させる。そして、教育・啓発活動においては、第23回日本水泳ドクター会議、第20回日本水泳トレーナー会議への協力等を通して、水泳文化の向上に寄与する。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供を骨子とし、養成講習会の講師派遣等への協力を行う。その他、水泳の医科学に関わる教育・普及活動では、ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進、医学生・若手医師のためのスポーツ医学・健康医学セミナー等を実践する。

- ① 競技力向上に関する科学サポートの実施
- ② 競技会における救護活動による医事サポートの実施
- ③ 国際競技会への選手団派遣に伴う医事管理
 - (a) アンチ・ドーピング活動
 - (b) ドーピング・コントロールの実施
 - (c) 強化対象選手のメディカルチェック・身体計測・障害予防プログラムの考案
 - (d) 相談活動及び調査研究
 - (e) チームドクター、トレーナー派遣によるメディカルサポート
- ④ 教育・啓発活動
 - (a) 第23回日本水泳ドクター会議への協力
 - (b) 第20回日本水泳トレーナー会議への協力
 - (c) 水泳による障害を予防するためのプログラムの考案と普及活動
- ⑤ 指導者資格付与制度への講師派遣協力
- ⑥ その他 水泳の医・科学に関わる教育、普及活動
 - (a) ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進
 - (b) 医学生・若手医師のためのスポーツ医学・健康医学セミナーの実施

4. 競技運営事業

競技運営事業担当 安部 喜方

(1) 競技委員会

競技委員長 安部 喜方

平成22年は、FINAの競技規則の改訂に伴う、新ルールでの競技会運営を4月1日から行う。また、競技役員資格・登録については、新資格制度による登録のスタートの年となる。4年間をかけて移行する。

4月の競泳日本選手権は6日間開催とし、大会期間中に全国競技委員長会議を開催する。水球のワールドリーグ・アジアオセアニアラウンドは、2回目の日本開催を大阪で行う。今後も国際レベルの競技会運営を目指していきたい。

- ① 競技運営
 - (a) 各種目競技会日程要項作成
 - (b) 各種目競技会要項に基づく競技会の実施・運営
 - (c) 国際大会の開催

(ア) 水球ワールドリーグ(アジアオセアニアラウンド)

(d) 主要競技会

【競泳】

(ア)	日本選手権水泳競技大会 兼第16回代表アジア競技大会代表選手選考会 兼パンパシフィック選手権大会代表選手選考会	4月13～18日	辰巳国際	東京
(イ)	日大・中大対抗戦	5月15日	辰巳国際	東京
(ウ)	早大・慶大対抗戦	5月16日	辰巳国際	東京
(エ)	ジャパンオープン(50m)	6月4～6日	辰巳国際	東京
(オ)	日本実業団競技大会	7月31日・8月1日	京都アクアリーナ	京都
(カ)	全国国公立大学選手権大会	8月9・10日	長野運動公園	長野
(キ)	日本高等学校選手権大会	8月17～20日	奥武山公園	沖縄
(ク)	全国中学校水泳競技大会	8月21～23日	広島市総合	広島
(ケ)	全国JOCジュニアオリンピックカ ップ夏季大会	8月26～30日	辰巳国際	東京
(コ)	日本学生選手権大会	9月3～5日	辰巳国際	東京
(サ)	国民体育大会	9月10～12日	千葉国際	千葉
(シ)	ジャパンオープン(25m)	2月26・27日	辰巳国際	東京
(ス)	全国JOCジュニアオリンピックカ ップ春季大会	3月27～30日	辰巳国際	東京

【飛込】

(ア)	室内選抜飛込競技大会	4月3・4日	辰巳国際	東京
(イ)	日本選手権水泳競技大会	8月6～8日	辰巳国際	東京
(ウ)	日本高等学校選手権大会	8月17～20日	奥武山公園	沖縄
(エ)	全国中学校競技大会	8月21～23日	福山市緑町	広島
(オ)	全国JOCジュニアオリンピックカ ップ夏季大会	8月26～29日	浜松市総合	静岡
(カ)	日本学生選手権大会	9月4・5日	大阪プール	大阪
(キ)	国民体育大会	9月10～12日	千葉国際	千葉

【水球】

(ア)	日本高等学校選手権大会	8月17～20日	県総合公園	沖縄
(イ)	全国JOCジュニアオリンピックカ ップ夏季大会	8月26～30日	広島市総合	広島
(ウ)	日本学生選手権大会	9月2～5日	相模原市	神奈川
(エ)	国民体育大会	9月14～17日	千葉国際	千葉
(オ)	日本選手権大会	10月1～3日	辰巳国際	東京
(カ)	全国女子水球大会	10月1～3日	辰巳国際	東京
(キ)	全日本ユース(U15)	12月24～27日	倉敷他	岡山
(ク)	全国JOCジュニアオリンピックカ ップ春季大会	3月26～30日	千葉国際	千葉

【シンクロ】

(ア)	日本選手権大会	5月2～5日	辰巳国際	東京
(イ)	チャレンジカップ	8月12～15日	辰巳国際	東京
(ウ)	全国JOCジュニアオリンピックカ	8月27～30日	県立長岡	新潟

	ップ夏季大会			
(エ)	国民体育大会	9月8日	千葉国際	千葉
(オ)	ソロ・デュエット	1月22日	辰巳国際	東京
(カ)	ナショナルトライアル	1月23日	辰巳国際	東京

【その他】

(ア)	OWSジャパンオープン	7月18日	館山	千葉
(イ)	館山OWS	7月18・19日	館山	千葉
(ウ)	日本マスターズ大会	7月16～19日	辰巳国際	東京
(エ)	日本泳法大会	8月21・22日	神戸 ^{ポートアイランド}	兵庫
(オ)	日本スポーツマスターズ	9月18・19日	鈴鹿スポーツ	三重
(カ)	日本泳法研究会	3月19・20日	水戸	茨城

- ② 競技役員研修会・講習会
 - (a) ブロック
 - (b) 各地域
 - (c) 日本選手権・ジャパンオープン(50m・25m)の実技研修
- ③ 競技委員長会議の開催
- ④ 選手登録
- ⑤ 競技役員登録(昇格基準の整理・登録のデータ化)
- ⑥ 競技運営企画・立案
- ⑦ 記録の公認・管理
 - (a) 日本記録の公認および高校・中学・学童記録の公認
 - (b) FINAへの世界記録の申請
 - (c) ホームページ上の記録の管理
- ⑧ 資格表の作成

(2) 学生委員会 学生委員長 山重 美登士

- ① 全国代表者会議の実施(年4回)
- ② 日本学生選手権大会の開催
- ③ 全国国公立大学選手権大会の開催
- ⑤ 全国学生選抜合同合宿の実施

(3) ジュニア委員会 ジュニア委員長 鈴木 浩二

- ① 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会の開催
- ② 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会の開催

5. 指導者養成事業

指導者養成事業担当 設楽 義信

指導者資格の基となる基礎水泳指導員に関する講習・検定試験の免除規程の見直しを検討する。

競技力向上コーチ委員会は、より高度なトップアスリートの育成と競技力向上のための指導者養成事業を実施していく。また、免除規程を利用しての新規養成計画を策定する。上級昇格のための資格審査、全国での研修会の実施、新規資格登録及び更新登録事務等の

業務を行う。

地域指導者委員会は免除規程の見直しを視野に入れて、幅広い指導者の育成を行っていく。上級指導員の再検定及びマスター上級指導員義務研修は順調に推移しており、加盟団体と連携をとりながら免除校検定試験、新規・更新登録業務をスムーズに行う。

水泳教師委員会は、全国のスイミングクラブとの連携をとりながら職業人としての水泳指導者の養成事業を行う。水泳教師新規養成、新規資格登録及び更新登録事務、水泳教師在籍施設証明事業、体育系専門学校等の適応コース検定会の実施等の業務を行う。

(1) 競技力向上コーチ委員会

競技力向上コーチ委員長 設楽 義信

- ① コーチ資格審査会(上級昇格 年2回)の実施
- ② コーチ資格の新規登録・更新登録業務
- ③ コーチ研修会事業(コーチ10会場・上級コーチ2会場)
- ④ 新規養成講習会事業の推進

(2) 地域指導者委員会

地域指導者委員長 宮本 憲二

- ① 基礎水泳指導員に関する業務
 - (a) 養成事業に係わる督励・指導・助言
 - (b) 資格の新規登録, 更新登録業務
- ② スポーツ指導員新規養成事業の推進
 - (a) 水泳指導員の養成(加盟団体への協力・助言・資格取得の督励)
 - (b) 水泳上級指導員の養成(日本水連が主催・主管)
- ③ スポーツ指導員有資格者の更新登録業務
- ④ 免除適応校専門科目検定試験の実施
- ⑤ マスター称号上級指導員義務研修会の開催
- ⑥ 全国地域指導者(普及)委員長会議の実施
- ⑦ 加盟団体各地区委員長会議の実施
- ⑧ 研究、編纂事業

(3) 水泳教師委員会

水泳教師委員長 澁谷 俊一

- ① 水泳教師新規養成事業の推進 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - (a) 適応コース講習検定会の実施 5校 (日本水泳連盟が担当)
 - ・ 大阪社会体育専門学校
 - ・ 東京スポーツレクリエーション専門学校
 - ・ トライデント・スポーツ健康科学専門学校
 - ・ 東京 YMCA 社会体育専門学校
 - ・ 東京リゾート&スポーツ専門学校
 - (b) 新規養成コース講習検定会の実施 (日本スイミングクラブ協会が担当)
 - ・ 日本スイミングクラブ協会全国10支部の各会場にて開催
 - (c) 「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施
- ② 水泳教師資格の新規・更新登録業務 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - ・ 4月・10月認定「日水連・SC協合同検定委員会」の開催

- ③ 水泳教師資格更新研修会事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - ・ 日本スイミングクラブ協会 全国10支部の各会場にて開催
- ④ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - ・ 4月・10月認定 認定施設の新規・更新登録業務

6. 生涯スポーツ・普及事業

生涯スポーツ・普及事業担当 鈴木 大地

生涯スポーツ・普及の事業は多岐にわたるが、オリンピックなどの国際競技大会をピラミッドの頂点とすれば、本事業はその底辺の一端を担う。本年度も普及促進に務めていきたい。

日本泳法委員会では、泳法研究会、泳法大会、審判研修会を通じ普及を図る。資料作成等工夫をおこない独自の策を講じているが、まだまだ特定の人間たちの中での活動という印象を拭えない。これまで対象外としていた層に対しどのようなアピールができるかが課題である。

OWS委員会では、安全重視の競技会運営によって普及を図りたい。安全対策ガイドライン作成と併せて検定、指導員制度等の確立を目指す。既存大会のメジャー化と国際大会への関わりも大きな課題の一つである。それに関連し選手発掘および育成も急務である。

生涯スポーツ委員会では、泳力検定会の更なる普及と日本スポーツマスターズ大会の全都道府県の参加を達成させたい。競技スイマー予備軍および30歳以上のマスターズ層を支えるのが同検定会であり同大会である。そのため地方体協および加盟団体と連絡を密にし、強固な関係を築き上げることも重要である。

(1) 日本泳法委員会

日本泳法委員長 八木沼 正彦

- ① 第55回日本泳法大会 8月21・22日 神戸ポートアイランド
- ② 游士、練士、教士、範士の資格認定、游士研鑽会の開催
- ③ 第60回日本泳法研究会 H23年3月19・20日 茨城県水戸市
 - ・ 課題「水府流」

(2) OWS委員会

OWS委員長 鷺見 全弘

- ① 競技会運営(安全重視の競技会運営)
 - (a) 「OWS ジャパンオープン2010 館山/第14回館山オープンウォータースイムレース」の開催
 - (b) 競技会プレイベント(競艇場)の開催
 - (c) サーキットシリーズ化に向けた各地のOWS大会の支援協力
- ② 普及発展(競技人口の拡大)
 - (a) OWS スイムクリニックの通年開催
 - (b) 「OWS 安全対策ガイドライン」の導入
 - (c) 「OWS 検定制度」の導入
 - (d) 「一般OWS指導員制度」(案)の継続検討
 - (e) 競技会のサーキットシリーズ化構想の継続推進
- ③ 競技力向上(ジュニア選手からトップ選手に至る強化育成基盤の確立)
 - (a) 選手の発掘・育成・強化に向けた業務全般

- (b) 年代別チャンピオンシップ大会の構築推進
- (3) 生涯スポーツ・普及委員会

生涯スポーツ・普及委員長 鈴木 大地

- ① 泳力検定制度の推進
 - (a) 検定者数および検定会場の増加
 - (b) 検定料の見直し
 - (c) 泳力検定優秀団体表彰
- ② 日本スポーツマスターズ大会(9月18・19日三重県鈴鹿)の運営
 - (a) 参加都道府県の増加
 - (b) 告知方法と事務手続き簡略化の工夫
 - (c) 大会のブランドイメージ向上
- ③ 地域スポーツ活動への支援・協力
優秀登録団体表彰

7. 総 務

総務事業担当 坂元 要

広報委員会は、月刊水泳の発刊とホームページの運営の両事業の役割分担を明確にし、月刊水泳事業はページのカラー化に伴い、より一層の内容の充実と発行部数の増加を図り、ホームページ事業については管理委託会社との連携をよりスムーズにしてタイムリーな情報公開とページ構成を工夫し、アクセス数の拡大につなげたい。

施設用具委員会は、4月1日改正のプール公認規則2010年度版の発行とホームページからのダウンロード化を行い、公認規則を水泳関係者、加盟団体担当者及び公認測量者に周知徹底する。公認審査体制を充実させ「Q&A」の活用や、プール台帳を整備し再公認申請など審査業務の円滑化を図る。水泳競技を取り巻く用器具の研究・審査並びに新規プールに対する適切なアドバイスが行えるような体制と関連資料作りを目指したい。

情報システム委員会は、Web版の競技者登録及び大会エントリーシステムの定着化に伴い、22年度は基幹システムとしてさらなる使い勝手の向上を図る。競技役員管理システムは、従来の制度から公認競技役員と審判員制度を合わせた制度となるため、この制度の運用の効率化と加盟団体および競技種別を一元管理できるシステムを開発する。

総務委員会は、新公益法人制度改革に伴う定款やその細則の原案作成に着手し、公益財団法人へ移行する準備作業を行っていく。また発刊された規定集の見直しや追加を継続して実施すると共に、各委員会との連絡調整を密接に行い、諸事業の運営を円滑に推進していきたい。また、ロンドンオリンピックに向け収益事業並びに免税基金事業の促進とオフィシャルサプライヤー及びスポンサー各社とのさらなる連携強化を図り、“センターポールに日の丸を”の目標に向かってサポート体制の強化を図りたい。

- (1) 広報委員会

広報委員長 村山 よしみ

- ① 月刊水泳の内容充実と定期購読者増
- ② ホームページの充実と活用促進
- ③ 広報活動

(2) 施設用具委員会

施設用具委員長 國富 進

- ① プール公認規則等の整備と実施
- ② プール施設の公認
- ③ 用器具の公認、推薦
- ④ プール施設及び用器具の研究、開発

(3) 情報システム委員会

情報システム委員長 須永 孝

- ① Web版の競技者登録及び大会エントリーシステムの機能改善
- ② Web-SWIMSYSシステムのインフラ強化
- ③ リザルトシステムの普及と機能改善

(4) 総務委員会

総務委員長 坂元 要

- ① 事業計画の作成
- ② 新公益法人制度移行への対応
- ③ 規定集の整備と実施
- ④ 公認・推薦等、収益事業の推進と統括
- ⑤ 免税基金事業の推進と統括
- ⑥ 有功章の表彰
- ⑦ 各種登録及び更新業務
- ⑧ オフィシャルサプライヤー制度の推進
- ⑨ 各種会議の開催
- ⑩ 各種の渉外業務
- ⑪ 地域会議の開催
- ⑫ 事務局の管理

8. 国際関係事業

国際関係事業担当 佐野 和夫

- (1) 国際水泳連盟（F I N A）及びアジア水泳連盟（A A S F）関係業務
- (2) 諸外国との交流に関する業務（競技者資格証明の発行等を含む）
- (3) 国際大会開催に関する諸業務

9. 財務一般会計

財務担当 山重 美登士

- ① 予算の作成と執行管理
- ② 中長期財務対策

10. 特別委員会

(1) 財務委員会

財務委員長 堀 正美

- ① 賛助会員登録の推進
- ② 免税募金業務

(2) 競技者資格審査委員会

競技者資格審査委員長 泉 正文

競技者資格の審査

(3) 選手選考委員会

選手選考委員長 佐野 和夫

国際競技会派遣日本代表選手団の選考

(4) 指導者養成委員会

指導者養成委員長 設楽 義信

指導者養成制度の確立と資格認定審査

(5) アンチ・ドーピング委員会

アンチ・ドーピング委員長 佐野 和夫

アンチ・ドーピング活動の計画と推進

(6) スポーツ環境委員会

スポーツ環境委員長 佐野 和夫

スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進

(7) 倫理委員会

倫理委員長 青木 剛

倫理、社会規範意識の啓発と指導

(8) 国際委員会

国際委員長 佐野 和夫

国際水泳連盟（F I N A）及びアジア水泳連盟（A A S F）への対応と国際大会開催